ウェブが拓く
Bizスタイル2.0

第2部 アイデアで稼ぐ 4

国産ソフト 世界が舞台

3年先を読んで「最新」に触れる

ソフト開発のインフォテリア

今年九月、米国で有名なWeb（ウェブ）2・0関連の情報サイト「eHUB」に一人の日本人のインタビューが掲載された。彼の名は江島健太郎（31）。ソフト開発会社インフォテリア（東京・品川）の米国法人代表。

代表といっても米国法人は総勢三人の小所帯。江島は昨年七月に単身渡米。米社との提携をまとめ上げた後もシリコンバレーに残りウェブ関連の情報収集を続けてきた。出会ったのがウェブ2・0の最先端技術「Comet（コメット）」の原型。サーバーやネットワークの負荷を抑えつつ大容量のデータ交換を可能にする特性に引かれ、米国人技術者二人とともに実用化に取り組んだ。

成果はインターネット閲覧ソフト（ブラウザー）から動画など自由にやり取りできるチャットサービス「Linger（リンガー）」として結実した。これまではリアルタイムに大量のデータをやり取りするチャットサービスをブラウザーで実現するのは不可能とされてきた。八月に一般公開したところ、コメットをいち早く採用した事例としても注目を集めた。

リンガーは同社と全く関係ない技術者が機能拡張ソフトや日本語版をボランティアとして開発するなど支持が広がりつつある。「技術者たちのコミュニティーと接触していれば新しいヒントは常に得られる」と江島は言う。リンガーは現時点では売り上げの見通しは立っていない。だが「三年後の技術トレンドを読む努力を怠るとソフト会社は生き残れない」。社長は自ら言い聞かせる。

「海外でも通用するソフトを作る」。これが平野の口癖だ。熊本大学在学中にアルバイトとして開発に参加した日本語ワープロソフトは一時ヒット商品となったが、会社が機能強化の方向性を見誤り失速した。その後、平野は「マーケティングを学びたい」と外資系ソフト会社に十年弱勤めた後、一九九八年に満を持してインフォテリアを創業した。

それから八年、主力製品の企業向け情報交換支援ソフト「アステリア」は三百社以上に採用され、この分野では海外製品を抑えてトップシェアを誇る。ゲームを除けば圧倒的な輸入超過状態にある日本のソフト市場では珍しい成功例だ。

平野は次の成長の種をウェブ2・0に求める。米国発のリンガーだけではない。八月には日本で開発した「ソーシャルカレンダー」のソフト「c2talk（シー・ツー・トーク）」の無償配布を始めた。ネットからイベント情報などを取り込んだり、自分の予定を他の利用者と共有できる特徴が受け、十一月末までに一万三千人の利用者を獲得した。

「人と人とをつなぐことが我が社のミッション」と平野は明快だ。社名の由来となった「情報（インフォメーション）が自由に行き来するカフェテリア」を目指して、今日も技術に磨きをかける。（敬称略）

2面に続く

インターネットを利用したTV会議でアメリカ駐在員から最新動向の報告を受ける（東京都品川区のインフォテリア）

ネット

海外めざし大同団結

1面から続く

ウェブが拓く
Bizスタイル2.0

国内のソフト市場ではマイクロソフト、オラクルといった外資系が高いシェアを持つ。富士通や日立製作所などのメーカー系もシステム構築に合わせて自社製ソフトの売り込みに余念がない。知名度で劣る独立系のソフト会社が一段の成長を遂げるには海外進出は避けて通れない。

今年十月、米シリコンバレーの中心地、サンタクララ市でウェブ2・0の中核技術「Ajax（エイジャックス）」に関する初めての大規模な展示会が開かれた。IBMやアドビシステムズなど大手に交じって出展したベンチャー企業の中に、日本のHOWS（ハウズ、東京・台東）の姿もあった。

独自技術で販路を開拓

「日本発世界」。大塚裕輩社長はこうした目標を掲げて、昨年五月にHOWSを設立した。独自のAjax技術で国内のウェブ2・0市場を切り開き、二〇〇七年十月期の黒字転換も視野に入ってきた。

Ajaxの反応速度を十倍以上に高める開発支援ソフトは米国の展示会でも注目を集めた。現在、数社と提携交渉を進めている。「独自の技術さえあれば世界でも十分通用する」

もちろん海外で成功するのは簡単ではない。インフォテリアは〇〇年に米国子会社を設立したが、軌道に乗らず二年後に清算した過去がある。大塚氏もHOWSの前に社長を務めていたアクシスソフトで海外進出を試みたが、道半ばで挫折した。

海外進出したものの販路開拓などが進まず、資金難から撤退したソフト会社は山ほどある。

だが、いつまでも国内市場に甘んじているわけにはいかない。欧米に続いて、中国やインドなどのソフト会社も続々と日本市場に進出しつつある。

そんな中、国内勢が大同団結して海外進出を目指す動きが出てきた。サイボウズやソフトブレーンなど中堅ソフト十三社が今年八月に設立した「メイド・イン・ジャパン・ソフトウェア・コンソーシアム（MIJS）」だ。発起人の一人、サイボウズ社長の青野慶久氏は「日本のソフト力を世界で証明する」と意気込む。すでに中国に拠点を開設し販路開拓を始めた。来年以降には米国にも進出する計画だ。

海外進出を目指す国産ソフト会社の連合「MIJS」の主要メンバー

企業名	主要ソフトの分野と製品名
アクセラテクノロジ	検索・「ビズサーチ」
アプレッソ	システム間連携・「データスパイダー」
ウイングアークテクノロジーズ	帳票出力・「SVF」
エイジア	顧客情報管理・「WEB CAS」
クオリティ	パソコン管理・「QND」
構造計画研究所	目標管理・「MBO SYSTEM」
サイボウズ	グループウエア・「サイボウズ」
システムインテグレータ	電子商取引サイト構築・「SIウェブショッピング」
ソフトブレーン	営業支援・「eセールスマネージャー」
HOWS	開発支援・「AjaxBuilder」

新語辞典

■Comet（コメット）

ウェブシステムの使い勝手を向上する技術の一種。大勢の利用者が大容量のデータを素早くやり取りするために使う。新着情報があるときだけサーバー側からブラウザーにデータを「プッシュ型」で自動配信する。新着情報がないときはブラウザーとサーバー間の通信が発生しないため、システムやネットワークの負荷を軽減できる。ある利用者が加えた変更を即座に他の利用者に伝えることも可能になる。こうした特性を生かせば、ブラウザーでチャットシステムを構築することができる。

通常のウェブシステムは、ブラウザーの更新ボタンなどを押して、定期的にサーバーに新着情報の有無を問い合わせる「プル型」なので、常時通信し続ける。このため大勢の利用者が同時にアクセスする場合はサーバーやネットワークの負荷が高く、実用にならなかった。